

## 第2回国史跡下総小金中野牧跡整備実施計画策定委員会会議録

日時：平成26年9月11日午後2時～午後5時

会場：鎌ヶ谷市役所5階502会議室

出席者：委員：赤坂信委員、秋山秀一委員、小野正敏委員、久留島浩委員、橋口定志委員、佐藤武雄委員、小川博巳委員

オブザーバー：千葉県教育庁文化財課神野信主任上席文化財主事

事務局：犬塚文化・スポーツ課長、文化・スポーツ課：三石課長補佐（事）文化係長、松丸主事

その他の出席者 委託業者：株式会社文化財保存計画協会（恒川）

傍聴者 なし

### ◆委員長挨拶

### ◆会議署名人について

- ・今回の会議録署名人は、久留島委員、橋口委員を指名した。
- ・今回の会議録からは、要旨記録とすることを確認した。

### 【会議録】

#### ①整備実施計画策定スケジュール変更について

##### 確認事項

- ・前回の委員会の意向を受けたものとして変更案を確認・承認した。

#### ②整備を前提とした発掘調査実施案について

##### 確認事項

- ・整備実施計画策定には発掘調査が必要という整備実施計画策定委員会の意見を受けて文化庁と調整していくこととなる。
- ・千葉県教育庁文化財課から、文化庁へは発掘調査が必要なことは伝えてあり、調整が整えば、発掘調査による現状変更申請書類を提出できる見込みである。
- ・調査期間は、概ね2週間を見込んでおり、調査状況は委員各位にも確認していただく予定である。
- ・作業内容は、主にトレンチ調査によるもので史跡状況の確認を目的とする。  
整備実施計画を策定する上で必要となる遺構の遺存状況確認（攪乱状況の確認、土塁の崩落状況の確認）など。  
調査は、基礎データの把握をして、整備の方向性の参考とするという観点から行う。
- ・委員の調査状況確認の機会とするため、次回会議は発掘調査実施中に設定することとしたい。

##### 指摘事項

- ・調査状況は、考古学的視点だけでなく、いろんな分野の委員がそろっている中で確認し、いろいろな観点から意見がもらえるようにしていただきたい。
- ・予定期間で調査を終了することは可能なのか。調査を行った結果、想定外の状況となった場合は、状況の変化に対応（追加調査の実施）できるように想定をしておくこと。
- ・地元にも発掘調査成果を示す機会（見学会）を設けること。

#### ③整備に係る現状変更申請手続きについて

##### 指摘事項

- ・文化庁には、事前に会議結果の報告を行うこととした方がよい。その際、この委員会

として整備実施計画策定のためには、発掘調査が必要であるということになった旨を報告すること。

#### ④整備実施計画概要（案）について

##### 確認事項

- ・保存管理計画を踏襲した内容で整備実施計画策定を進める。
- ・保存整備事業への市民参加（ボランティア）については、すでに国史跡の周知普及実行委員会が組織されており、周知普及事業に対しては、自治会を通して協力を依頼する形が定着してきているので、市民参加組織はゼロベースからのスタートではない。
- ・整備を進めることで、さらに市民参加を推し進めたい。

##### 指摘事項

#### I 整備活用の基本理念と基本方針

- ・市民参加（ボランティア）があることは、市民の意識が高いということであるが、継続するためには十分なサポートが必要である。
- ・捕込の区画内に植生しているスギは、太平洋戦争後に植えられたものなので、元から生えているものではない。整備工事を行う際には伐採した方がよいのではないか。
- ・公道に面した部分はゴミが投棄されていたこともあるようなので、整備の前には調査などで地下の状況を確認する必要がある。

#### II 実施計画

- ・整備のコンセプトは、現状保存なのか復元なのかを委員会としても意見を固めるべきである。
- ・捕込が使われていた段階でも土手の形状の改変があったかを見極めることも大切である。発掘調査によって確認できないか。
- ・史跡は、観光と関わらせて考えられることもあるので、整備することでより注目されることとなる。
- ・地域のミニコミ誌で取り上げられることで、周知され、市民の認知度も高くなるようである。いろいろな機会を捉えて外へ情報を発信していくことは大切である。
- ・失われた史跡の復元にあたっては発掘調査による確認作業が必要である。
- ・土塁は、現状保存がいいのではないか。現在の状況が土手の法面が崩れないバランスなので、遺構（捕込）のすべてを復元しなくてもよいと考える。
- ・（法面の傾斜角度について）物理的変化と自然崩落がある。復元することによってかえって遺構を傷めることもあるので注意されたい。また、（遺構状況を）すべて改変することによって安全面に問題が発生することもある。
- ・土手の復元は全面でなく、一部でよいと思う。元来、その状態であったことを確認するに止めること調査で良い。木戸もあったということから、その位置を調査で確認していただきたい。
- ・発掘調査で遺構の状態確認を行ったうえで、具体的な整備手法を議論すべきである。
- ・史跡への階段設置は遺構の法面を刻む方法はやめて、地面を痛めない構造を検討すべきである。神奈川県相模原市の津久井城の場合は海外（カナダ）まで事例を求めた（東海大・近藤教授）。
- ・野馬捕りは、江戸でも知られた大きな事業であったので、茶番所など野馬捕りの様子を記した『成田名所図会』等で見られる、人の動きが想像できる工夫をしてほしい。
- ・説明板は、捕込の場所だけでなく、野馬土手を含む中野牧の範囲内で作ること。野馬土手の所在を明らかにすることで史跡の資産価値を上げることにもなる。

- ・ 史跡の中心（捕込）だけでなく、中心を支える断片（野馬土手）をつなげることで中心を助けることになる。整備は、中心部分だけを囲うことにとどまらないでほしい。
- ・ 市内にある野馬土手の説明板をたどっていくと最終的に捕込につながる工夫があったらいい。
- ・ （国指定されている）史跡だけでなく、市域にあるもの（文化財）を統合的に関連させること。一つの観点からではなく、発掘の分野と文献の分野とで史跡の価値を確認して行ってほしい。
- ・ ガイダンス施設の代わりに資料館を活用するということであるが、整備の核となる捕込だけを整備して、資料館施設は何も変わらないということがないように。
- ・ 資料館から捕込までを歩くこと（移動時間（距離））に何か歴史的な意味を持たせることはできないか。
- ・ 資料館は、国史跡と一体で知ってもらう必要があるので、同じ地図内で示せるように。
- ・ 史跡内の便益施設はベンチ程度で、他は貝柄山公園にすでにある便益施設を使用することで行くのか。
- ・ 入口の機能を確認（ガイダンス機能の設置場所について）すること。
- ・ 点々と拠点化していく（野馬土手）と、中心に付加価値が生まれる（捕込）。情報を積み重ねていくことが大切である。
- ・ モザイクカルチャーの活用は、見た目や作成に参加することは楽しいが、維持管理に経費がかかる。その点でトピアリーの方が活用しやすいかもしれない。
- ・ 整備事業は、様々な新たな手法を取り入れることは、難しいのではないか。トピアリーの活用は好みが分かれるところであると思う。
- ・ 市民参加（ボランティア）は、どんな手法にしてもスキルは必要である。指導や作業は誰が行ってもいいわけではない。きちんとした人材を置くべきである。
- ・ 植林は、在来種のを慎重に選定して行う必要がある。
- ・ 防犯管理は、郊外に所在するものと違い、街中に所在する史跡整備には必要な課題である。管理施設として木戸に鍵をかけるのかどうか、などの検討も必要である。
- ・ 保存と共存、古いもの、大事なものが理解されると、社会的に関心を持たれるようになる。
- ・ イベントが長続きしていくかは気になりだが、普及・広報活動は大事である。それを持続できるかどうかは行政側の力量の問題でもある。
- ・ 野馬土手は、鎌ヶ谷だけでなく、松戸や柏にもあったものだが、早く整備の手を入れられれば、それだけ他市に先んじて、注目をされると思うので、整備が早く進められればいいと思う。
- ・ 市民参加（ボランティア）は、みんながやりたがるものであることが望ましい。
- ・ 観光先進地では、市民参加（ボランティアガイドなど）の研修が充実しており、研修によって新しい知識を得る機会がある。また定期的に新しい知見が得られることから、制度が疲弊しない（例；ボランティアガイドの説明内容に改善点があるにもかかわらず何年たっても同じ説明を繰り返しているなどの知識や意識の停滞がない）。
- ・ 市民参加は、発足時の年齢構成がそのまま上がっていくことが無いように、活性化していく必要がある。そのためのお膳立ては、行政がリードしていくべきである。

#### ⑤次回日程について

次回日程は、現地発掘調査に合わせて第1案として12月22日（月）、第2案として1月9日（金）を予定している。発掘調査時期の設定により、次回開催日時を決定することとする。

会議終了  
[終了]

以上会議の経過を記載し、間違いないことを証する。

平成26年11月30日

国史跡下総小金中野牧跡整備実施計画策定委員会委員

署名人 久留島 浩 印

---

署名人 橋口 定志 印

---